

- ① 新任教員と中堅・ベテラン教員のFDワークショップ
- ② FD委員会活動報告
- ③ 授業紹介

NEWS ① 新任教員と中堅・ベテラン教員のFDワークショップ

～Project Based Learning (PBL) and 21st Century skills～

2011年12月10日(土) 西宮キャンパスにおいて、FDワークショップ～Project Based Learning (PBL) and 21st Century skills～が開催され、18名の教員が参加しました。ワークショップの様子を報告します。

Program 1

Warm-up activity on 21st Century skills (in teams)

一般的な“21st Century skills”を教わる前に、21世紀に必要とされるスキルについて4グループに分かれて議論し、まとめてみました。4グループに共通するスキルもありましたが、「芸術」「体力」など学部や教員の専門の立場から求められるスキルが異なることが顕著になりました。

Program 2

Interactive lecture on Project Based Learning & Workshop

PBLを導入するための8つの要素や、実際に活用したときの成績評価として、スキル習得の達成度をEmergingレベル・Proficientレベル・Masteryレベルの3段階に分け、各レベルの達成度やスキルの計測方法について考えました。

各専門ごとに求められるスキルは異なる
スキルの計測方法について考える!



▲ポストイットを使用し、21世紀に必要とされるスキルについて考えました

▲グループワークの様子

◀講師のジョーンズ・プレント教授(左)とパーマー・ロジャー講師(右)

[21st Century skills と PBL]

“21st Century skills (21世紀型スキル)”とは、生涯を通じて自律的に学び続け、さらに21世紀の社会で不可欠となるものです。Critical thinking & Problem solving, Creativity & Innovation, Communication, Collaborationなどがあげられ、これらの習得方法としては、従来型の「講義」より、ワークやディベートを通して学んだ知識や概念を深め応用し、成果を作りあげる課題解決型のPBL (Project Based Learning) が有効だといわれています。

授業公開についての事例発表

ワークショップの休憩時間を利用して授業公開の事例発表が行われました。文学部が実施している「授業公開ウィーク」についての仕組みや狙い、経済学部の「地域活性化システム論」(甲南大学の学生以外も受講可)やYou Tubeでも公開されている「Joint Lecture」についての意図や効果が披露されました。

参加者の感想

- 学部をこえた教育・授業の悩みの共有と新たな視点での解決策が見えてきた。
- もっと学生に自発的に取り組んでもらえるような授業を、発想を新たにして考えてみたい。
- 専門により見方が異なるのは当然であるが、交流するところという雰囲気になるという具体例を体験できた。

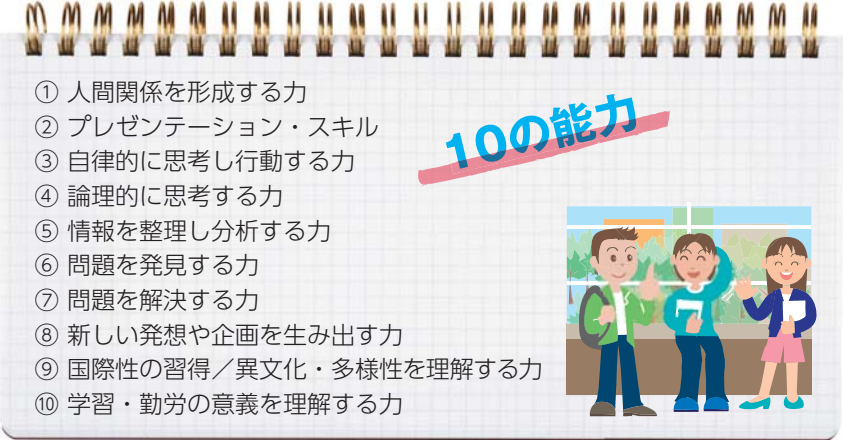
FD委員会
活動報告

甲南大学では、FD活動を“教育の質を向上させるのための組織的な取り組み”と考えるだけでなく、“Student First”宣言に基づき、学生の資質向上を第一に考えた取り組みとして捉えています。今回は、2011年度に実施した活動の中から2つ紹介します。

1 大学から社会への円滑な移行に必要な10の能力

FD委員会では、大学から社会への円滑な移行に必要な能力として10項目に注目し、その習得・向上に役立つと思われる授業については、その能力を選んで記載していただくようシラバスガイドラインを改訂しました。

この能力は、中教審答申や甲南大学教育基本方針、ディプロマポリシー（DP）、カリキュラムポリシー（CP）との関連の中からFD委員会で議論してまとめました。

- 
- 10の能力**
- ① 人間関係を形成する力
 - ② プレゼンテーション・スキル
 - ③ 自律的に思考し行動する力
 - ④ 論理的に思考する力
 - ⑤ 情報を整理し分析する力
 - ⑥ 問題を発見する力
 - ⑦ 問題を解決する力
 - ⑧ 新しい発想や企画を生み出す力
 - ⑨ 国際性の習得／異文化・多様性を理解する力
 - ⑩ 学習・勤労の意義を理解する力



2 産業界からの講師招へい授業

今年度、FD委員会では「社会との関わりを念頭において専門教育の受講を通じて、学生が自己の専門と社会との関連性について正しい認識を獲得すること」を推進し、各学部・センターにおいて産業界からの講師招へい授業を実

施しました。18の授業で、企業実務経験者に加えてカウンセラーや写真家など様々な講師が招へいされ、自らの経験をもとに講義を行い、社会と専門教育の関連を学生に伝えました。

授業紹介

経済学部：
石川 路子 准教授
地域活性化システム論



他の先生方はどのような授業をしているのでしょうか。「よい授業」とはどのような授業でしょうか。正解はないかもしれませんが、先生の数だけ授業の“カタチ”があります。

今回は「地域活性化システム論」を担当している経済学部の石川路子准教授にインタビューを行いました。

Q1 「地域活性化システム論」とはどんな授業ですか？

地域に根ざした活動をしている方からの講義を受け、いかに地域を活性化させるかを学生目線で考え、アクションプランをたてる授業です。この授業は内閣府の支援事業の一つであり、全国22大学（平成22年度）で実施されており、「地域リーダーの育成」を目的としています。

Q2 この授業の特徴は？

学生にとっては大勢の前で発表をしたり、みんなでグループワークをしたり、自ら知識を「使う」ところが特徴です。講義を聞くだけの授業よりも大変ですが、後々になって「就職活動に役立った！」という話も聞きます。

Q3 講師の方の反応はいかがですか？

「自分たちの知っていることを伝えただけなのに、感想だけではなくて積極的な意見が返ってくるのが楽しく、もっと学生さんとながらぎを持っていきたい」と希望されています。

Q4 この授業をするにあたって苦労していることはありますか？

どのような切り口で学生に考えさせるかというテーマ設定が難しいです。これまでは「地域の魅力づくり」という大きなテーマでしたが、今年度は震災の影響もあり、「防災」というテーマを設定しました。

Q5 今後の展望は？

2012年度は夏休みの集中講義での開講を予定しています。期間を夏休みとすることで、他学部の学生や高校生、地域の方を交えた授業とすることができます。また、アクションプランを考えることにとどまらず、プランの実行までを行う予定です。

これらの詳細については

甲南大学 HP 研究所・センター FD FDニュース

FDニュースへの
ご意見、ご感想は
こちら

こちらから
ご覧いただけます

大学企画室

TEL 078-435-2663(内線2810)

FAX 078-435-2306

MAIL kikaku@adm.konan-u.ac.jp

さらに詳しい情報・報告はホームページへ！